

1. 特に効果的であり改善に資した事例

B. 円滑な学位授与の促進

⑥その他

⑥その他

《理工農系》

●東京工業大学理工学研究科原子核工学専攻

「個性を磨く原子力大学院教育システム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

修士課程1年生の前半は、研究室に所属させず、「コース室」の所属とし、マルチ・ラボトレーニング(ラボレス教育(研究室ローテーション))を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

コース室の教育スタッフとして、教育コーディネータ(特任教授1名)、コース・マネージャー(専攻教員1名)及びコース・サブマネージャー(専攻教員1名)が主に担当した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

「コース室」で半年間を過ごしたことにより、従来の研究室を拠り所にした縦割り教育(タコツボ教育)を組織的教育に改革することができた。複数の研究室を訪問することにより、特定分野における偏った知識・技能だけではなく、専門分野の幅広い基礎的素養の涵養を図ることができた。更に学生同士の横の繋がりが強くなった。